

2015年に駒澤大学に留学してきたフランス人ジェニファー・ヴィダルさんのことを書いてみたいと思います。

彼女は来日当初から三井ボランティアの活動に積極的に参加して「江戸東京博物館着物体験会」や「茶道体験や浴衣会」の企画や準備を手伝ってくれました。

勉強の合間を縫って「歌舞伎」や「文楽」や神社のお祭りなど季節ごとに多くの伝統行事を楽しみ、1年の留学期間が終了した時には「帰りにたくない！絶対に再度来日する」と言い残してフランスに帰国しました。そして翌年には「ワーキングホリデービザ」を取得して再び東京に戻り、はやりの民泊で部屋を決めてすぐにフランス語講師の仕事を始めました。休日には御朱印帳片手に観光し、日本語の勉強も忘れずN2の試験に合格し、働きながら日本での滞在を満喫しました。

こうして彼女と駆け抜けた2年間は、私にとっても「楽しく充実した忘れがたい大切な思い出」となりました。しかし、彼女とは「これでお別れ」というわけではなく「次は地方都市での暮らしを体験したい」と言って帰国後に「JETプログラム」に応募し、幸運にも高知県須崎市役所での仕事を心得て再再度の来日を果たしました。

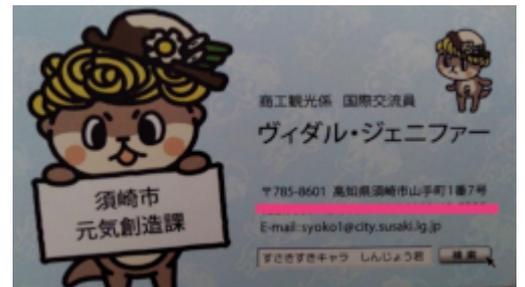
市役所では「フランス料理レッスン」を企画し、広報で募集するとすぐに満席になる人気のクラスになりました。今はコロナ禍で休講を余儀なくされていますが、写真を見ると「グラタン」や「ガトー・マーブル」は、とてもおいしそうで、私も習いに行きたくなりました。彼女は翌年にはパリに出張して「JAPAN EXPO」という、現地の日本ファンのための大規模イベントで通訳としても活躍しました。

多くの応募者の中から選ばれた2名のフランス人女性が来日した際には、国の重要文化財に指定されている鳴無(おとなし)神社を案内し、昼食時には鰹(かつお)をさばいて、燃え上がる炎で焼いて食べるという珍しい体験ツアーの案内を担当しました。このような体験型観光を通して街の魅力を世界に発信することもジェニファーの大切な仕事の一つになっています。須崎市は日本人でもその名前を知らない人が多い地方の小さな街ですが、海や山が近く、人情に溢れ、隠れた魅力がいっぱいです。

私も一度は訪れてみたいと思っていますが、皆様も「三井V-Net駒澤大学部会で交流をした留学生が活躍する」高知県須崎市へのご旅行を計画されてみてはいかがでしょうか？



お祭りに参加



ジェニファーさんの名刺

2018.08.19 08:35

## 高知県須崎市にフランスから交流員 国際観光推進へ情報発信

シェア ツイート

須崎とフランスの懸け橋に一。高知県の須崎市元氣創造課に今月、フランス出身のヴィダル・ジェニファーさん（24）が国際交流員として着任した。パリの見本市「ジャパンエキスポ」への出展などで海外への情報発信を強める須崎市にとって、頼もしい仲間になりそうだ。

フランス南部生まれで、15歳のころに日本の男性アイドルや俳優のファンになった。マルセイユの大学で日本語を専攻。駒沢大学に1年語学留学し、さらに1年間、ワーキングホリデーで東京に滞在した。...



(2018-8-19 高知新聞に掲載されたヴィダル・ジェニファーさん)